



2014年3月期第2四半期  
決算説明会

GS Yuasa Corporation

2013年11月6日



# 目次

---

1. 決算の状況
2. セグメント別業績
3. 貸借対照表・キャッシュフロー
4. 設備投資・減価償却費
5. トピックス
6. 留意点

# 1 . 決算の状況

---

## 経営環境

国内需要は、財政および金融政策の効果による円安・株高基調が続き回復傾向となった。世界経済は、米国では堅調に推移したが、欧州では一部持ち直しの兆しが見られるものの、債務危機および経済情勢の悪化は継続しており、また中国でも景気が一段と減速するなど、先行き不透明な中で推移した。

## 業績の概要

国内で太陽光発電用電源装置の販売が増加、また海外のグループ会社を連結対象子会社化したことにより増収となった。四半期純利益は為替差益と投資有価証券の売却益を計上したが、原料である鉛相場の上昇や、リチウムイオン電池事業におけるリコール関連損失を計上し、ほぼ前年並みとなった。

# 1 . 決算の状況

(億円)

	2012年度 2Q累計	2013年度 2Q累計	増減 (対前年同期増減率)
売上高	1,275	1,479	+204 (+16.0%)
営業利益	41	37	-4 (-7.8%)
利益率	3.2%	2.5%	-0.7p
経常利益	50	51	+1 (+2.6%)
当期純利益	31	30	-1 (-3.3%)

# 1 . 決算の状況

## 四半期損益の推移

(億円)

		1Q	2Q	3Q	4Q	通期
13年度	売上高	656	823	—	—	—
	営業利益	16	21	—	—	—
	経常利益	27	24	—	—	—
	当期純利益	1	29	—	—	—
12年度	売上高	629	646	684	786	2,745
	営業利益	14	26	24	33	98
	経常利益	19	30	32	41	123
	当期純利益	11	21	24	2	58

# 1 . 決算の状況

## 営業利益・経常利益・当期純利益

(億円)

	2012年度 2Q累計	2013年度 2Q累計	増減	主な増減要因
営業利益	41	37	-4	①鉛価格・売価変化 -14 ②数量の変化 +16 ③リチウム生産拡大初期費用等 -21 ④合理化・経費削減等 +11
経常利益	50	51	+1	①営業利益の減少 -4 ②為替差益 +6
当期純利益	31	30	-1	①経常利益の増加 +1 ②保有株式の売却益等 +29 ③リコール関連損失 -30 ④法人税等 -25 ⑤少数株主損失 +22

# 1 . 決算の状況

## 連結業績予想(通期)

(億円)

	2012年度 実績	2013年度 計画	増減
売上高	2,745	3,500	+755
営業利益	98	160	+62
利益率	3.6%	4.6%	+1.0P
経常利益	123	170	+47
当期純利益	58	100	+42
1株当たり 当期純利益	13.97円	24.22円	+10.25円

直近に公表されている業績予想からの修正無し

# 目次

---

1. 決算の状況
2. セグメント別業績
3. 貸借対照表・キャッシュフロー
4. 設備投資・減価償却費
5. トピックス
6. 留意点



## 2. セグメント別業績

(億円)

	2012年度 2Q累計		2013年度 2Q累計		増減	
	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益
国内自動車電池	260	13	254	6	-6	-7
国内産業電池電源	293	23	323	30	+30	+7
海外	603	36	763	42	+160	+6
リチウムイオン電池	47	-30	68	-51	+21	-21
その他	72	-1	71	10	-1	+11
合計	1,275	41	1,479	37	+204	-4

## 2. セグメント別業績

自動車  
セグメント



### 国内自動車電池事業

(億円)

	2012年度 2Q累計	2013年度 2Q累計	増減 (13-12年度)
売上高	260	254	-6
営業利益	13	6	-7
利益率	5.0%	2.4%	-2.6P

#### <2013年度 商況>

- [新車] アイドリングストップ車、ハイブリッド車用鉛蓄電池が好調
- [補修] 総需要は減少したが、販売シェアアップ
- 自動車関連部品(カーナビゲーションシステム等)の販売が減少

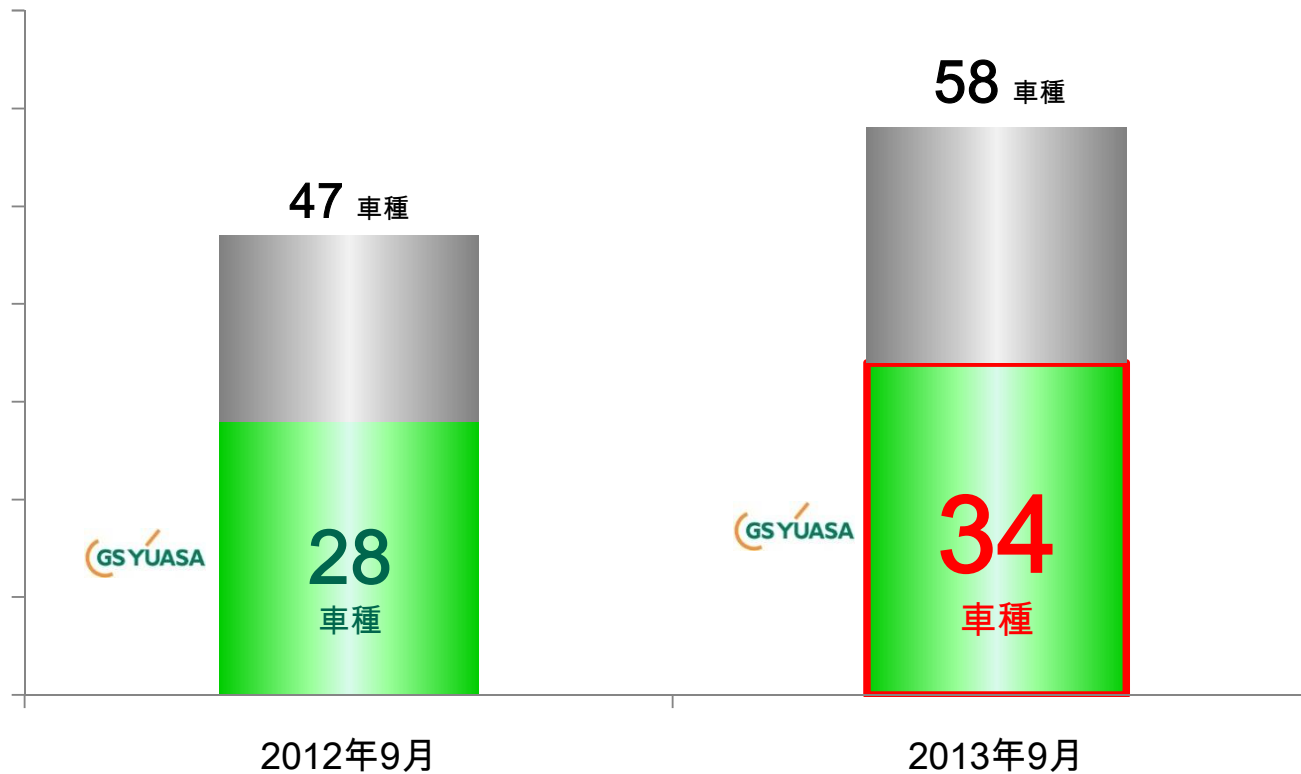
## 2. セグメント別業績



### 国内自動車電池事業

#### ■ アイドリングストップ車用鉛蓄電池の採用拡大

日系車両メーカーにおけるアイドリングストップ車数 (自社調べ)



## 2. セグメント別業績



### 国内産業電池電源事業

(億円)

	2012年度 2Q累計	2013年度 2Q累計	増減 (13-12年度)
売上高	293	323	+30
営業利益	23	30	+7
利益率	7.8%	9.3%	+1.5P

#### <2013年度 商況>

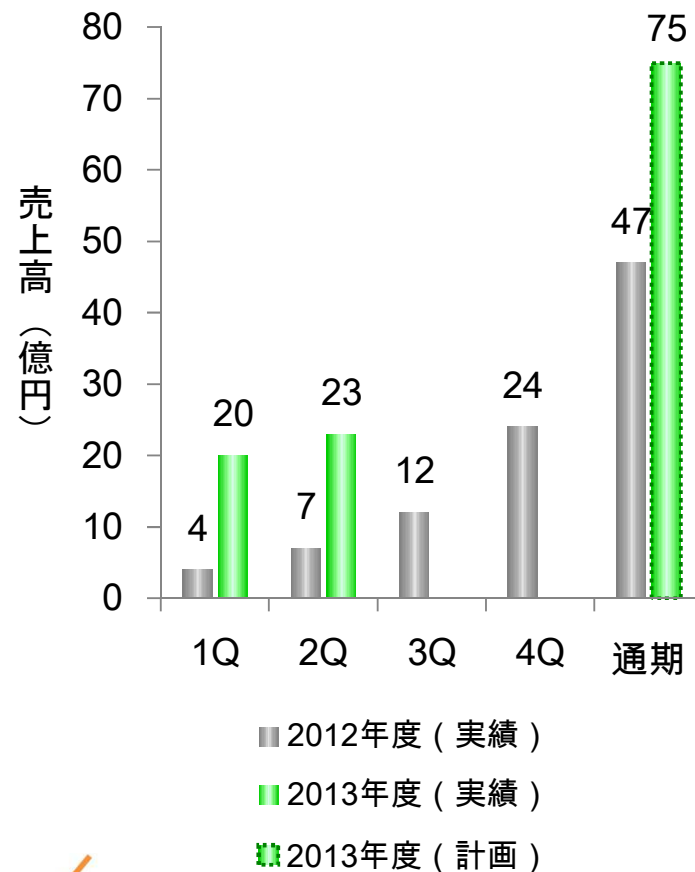
- 再生可能エネルギー固定価格買取制度の価格見直し以降も、太陽光発電用パワーコンディショナの需要は好調維持
- フォークリフト用鉛蓄電池の販売が好調

## 2. セグメント別業績



### 国内産業電池電源事業

#### ■ パワーコンディショナ販売拡大

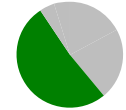


パワーコンディショナ(250kW)  
“ラインバックガンマ”

納入事例	容量
洋野ソーラーファーム(岩手県)	1.5 MW
いわきユアサ太陽光発電所(福島県)	1.0 MW
愛川太陽光発電所(神奈川県)	2.25 MW
新山科浄水場(京都府)	1.0 MW
タイカ太陽光颯娃(えい)発電所(鹿児島県)	1.0 MW

## 2. セグメント別業績

海外  
セグメント



### 海外事業

(億円)

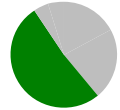
	2012年度 2Q累計	2013年度 2Q累計	増減 (13-12年度)
売上高	603	763	+160
営業利益	36	42	+6
利益率	6.0%	5.5%	-0.5P

<2013年度 商況>

- 海外のグループ会社を連結対象子会社化
- アセアンを中心に販売増加

## 2. セグメント別業績

海外  
セグメント



### 海外事業

### ～ タイ戦略 ～

#### ■ サイラムGSグループ(四輪・二輪)を連結子会社化

- 他株主からの株式買取 約 10 億円
- 増資引受 約 **20** 億円

自動車用鉛蓄電池の生産拡大(自動生産設備導入)

メコン経済圏(ミャンマー、カンボジア、ラオス等)への販売強化

- 連結財務諸表への反映

貸借対照表：第1四半期末より取込み 損益計算書：第2四半期より取込み

#### ■ アジア開発センターの設立 (2014年1月予定)

#### ■ GSユアサ サイラム インダストリー フォークリフト用鉛蓄電池の拡張

## 2. セグメント別業績

リチウムイオン電池  
セグメント



### リチウムイオン電池

(億円)

	2012年度 2Q累計	2013年度 2Q累計	増減 (13-12年度)
売上高	47	68	+21
営業利益	-30	-51	-21
利益率	-63.8%	-75.0%	-11.2P

<2013年度 商況>

- [ブルーエナジー] ハイブリッド車向けリチウムイオン電池の販売が増加
- [リチウムエナジー ジャパン] 品質問題への対応を完了し、8月より出荷を再開



## 2. セグメント別業績

リチウムイオン電池  
セグメント



### リチウムイオン電池

#### ■ リチウムエナジー ジャパン(LEJ)

- アウトランダー向け生産能力増強  
i-MiEV向けラインを改造
- 栗東第一工場 第4ライン(PSA他)を今年度中に量産立ち上げ
- 第1四半期にリコール関連損失を計上  
特別損失 30億円



“OUTLANDER PHEV”

#### ■ ブルーエナジー(BEC)

- 採用車種拡大にともない生産能力増強  
第2、第3ライン量産立ち上げ、第4ライン設備投資 (2013年度内)

“Accord Hybrid  
(Japanese Model)”



“Accord Plug-In”



## 2. セグメント別業績

### セグメント別増減益要因

(億円)

	営業利益増減 (13-12年)	増減益の主な要因			
		増益要因		減益要因	
国内自動車電池	-7	・ 合理化等	+6	・ 数量の減少 ・ 鉛価格・売価変化	-2 -11
国内産業電池電源	+7	・ 数量の増加	+12	・ 経費増	-3
海外	+6	・ 数量の増加 ・ 為替換算 ・ 連結子会社化	+6 +5 +2	・ 人件費及び増産 による経費増等	-6
リチウムイオン電池	-21	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ [BEC] 生産拡大初期の費用増</li> <li>・ [LEJ] 生産再開時の費用増と品質対応費用増</li> </ul>			

# 目次

---

1. 決算の状況
2. セグメント別業績
3. 貸借対照表・キャッシュフロー
4. 設備投資・減価償却費
5. トピックス
6. 留意点

### 3. 貸借対照表・キャッシュフロー

#### 貸借対照表

(億円)

	2013/3末	2013/9末	増減額		2013/3末	2013/9末	増減額
流動資産	1,287	1,421	+134	負債	1,492	1,599	+107
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 現金及び預金</li> <li>・ 棚卸資産</li> </ul>			+41	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 支払手形及び買掛金</li> </ul>			+41
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 需要期に向けた作り溜め</li> </ul>			+103	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 増産に伴う材料仕入増</li> <li>・ 有利子負債</li> <li>・ 長期借入金</li> <li>・ 退職給付引当金</li> </ul>			+24
							+34
							-23
固定資産	1,617	1,656	+39	純資産	1,412	1,478	+66
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 有形固定資産</li> <li>・ 投資有価証券</li> </ul>			+88	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 利益剰余金</li> <li>・ 為替換算調整勘定</li> </ul>			+6
			-52	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 円安による海外投資の含み益増</li> <li>・ 少数株主持分</li> </ul>			+51
							+16
総資産	2,904	3,078	+174	負債・純資産	2,904	3,078	+174

サイアムGSの子会社化 +87

### 3. 貸借対照表・キャッシュフロー

#### キャッシュフロー

(億円)

営業C/F		投資C/F		財務C/F	
	33		-2		-0
・税金等調整前利益	49	・有形固定資産取得	-65	・借入金の増加	40
・減価償却費	61	・保有株式の売却等	30	・配当金の支払	-35
・たな卸資産の増加	-49	・サイアムGSの現預金	33		
・税金等の支払	-40				

フリーC/F*	現金および現金同等物の残高			
31	期首	112	第2四半期末	153

#### ポイント

- ・ たな卸資産の増加があったが、リチウムイオン電池事業への投資はピークアウト
- ・ 保有株式の売却等もあり投資C/Fはブレークイーブン
- ・ そのため営業C/Fのプラスがそのまま残り、フリーC/Fはプラスに転じた。その結果、キャッシュの第2四半期末残高は41億円増加

# 目次

---

1. 決算の状況
2. セグメント別業績
3. 貸借対照表・キャッシュフロー
4. 設備投資・減価償却費
5. トピックス
6. 留意点

## 4. 設備投資・減価償却費

(億円)

	2012年度 2Q累計	2013年度 2Q累計	2012年度 通期実績	2013年度 通期計画
リチウムイオン電池事業	204	27	249	90
海外事業	20	24	41	60
国内既存事業、その他	20	27	42	100
<b>設備投資額 合計</b>	<b>244</b>	<b>78</b>	<b>332</b>	<b>250</b>
<b>減価償却費</b>	<b>61</b>	<b>58</b>	<b>133</b>	<b>120</b>
内 リチウムイオン電池事業	26	22	60	50

# 目次

---

1. 決算の状況
2. セグメント別業績
3. 貸借対照表・キャッシュフロー
4. 設備投資・減価償却費
5. トピックス
6. 留意点



# 5. トピックス

## 産業用リチウムイオン電池の採用事例

### 鉄 道



#### 近畿車輛

自己充電型バッテリー電車  
「Smart BEST」

#### JR東日本

平泉駅  
電力貯蔵用蓄電システム

#### 東武鉄道

上福岡き電区分所  
回生電力貯蔵装置

#### JR貨物

ハイブリッド入換機関車

### 航空・宇宙



#### NASA

国際宇宙ステーション

#### JAXA

H-IIA、Bロケット  
宇宙ステーション補給機

#### ボーイング

787型機

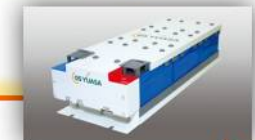
### 産業機械



#### 住友重機械 搬送システム

トランスファークレーン  
ハイブリッド電源装置

### 電力貯蔵



#### チリ国

コ克蘭石炭火力発電所  
運転予備用蓄電池

#### 九州電力

周波数変動抑制用蓄電システム  
(長崎県壱岐市)

# 目次

---

1. 決算の状況
2. セグメント別業績
3. 貸借対照表・キャッシュフロー
4. 設備投資・減価償却費
5. トピックス
6. 留意点

## 6. 留意点

---

### ■ 三菱自動車リコール関連費用について

- 合理的に見積もることができるリコール関連損失30億円を特別損失として第1四半期に計上
- 三菱自動車からの求償について現在交渉中
- 今後の交渉により当社負担額が増加する可能性あり

*Next to you !*

本資料は、当社グループの業績等についての一般的な情報提供を目的とするものです。本書に含まれる予測、予想、計画その他の将来情報は、当社において利用可能な情報に基づく現時点における当社の認識又は判断に基づくものであり、実際の結果はこれらの情報と大きく異なることがあります。また、当社は、本資料に記載された情報に変更又は更新があった場合にも、その内容を提供又は開示する義務を負うものではありません。

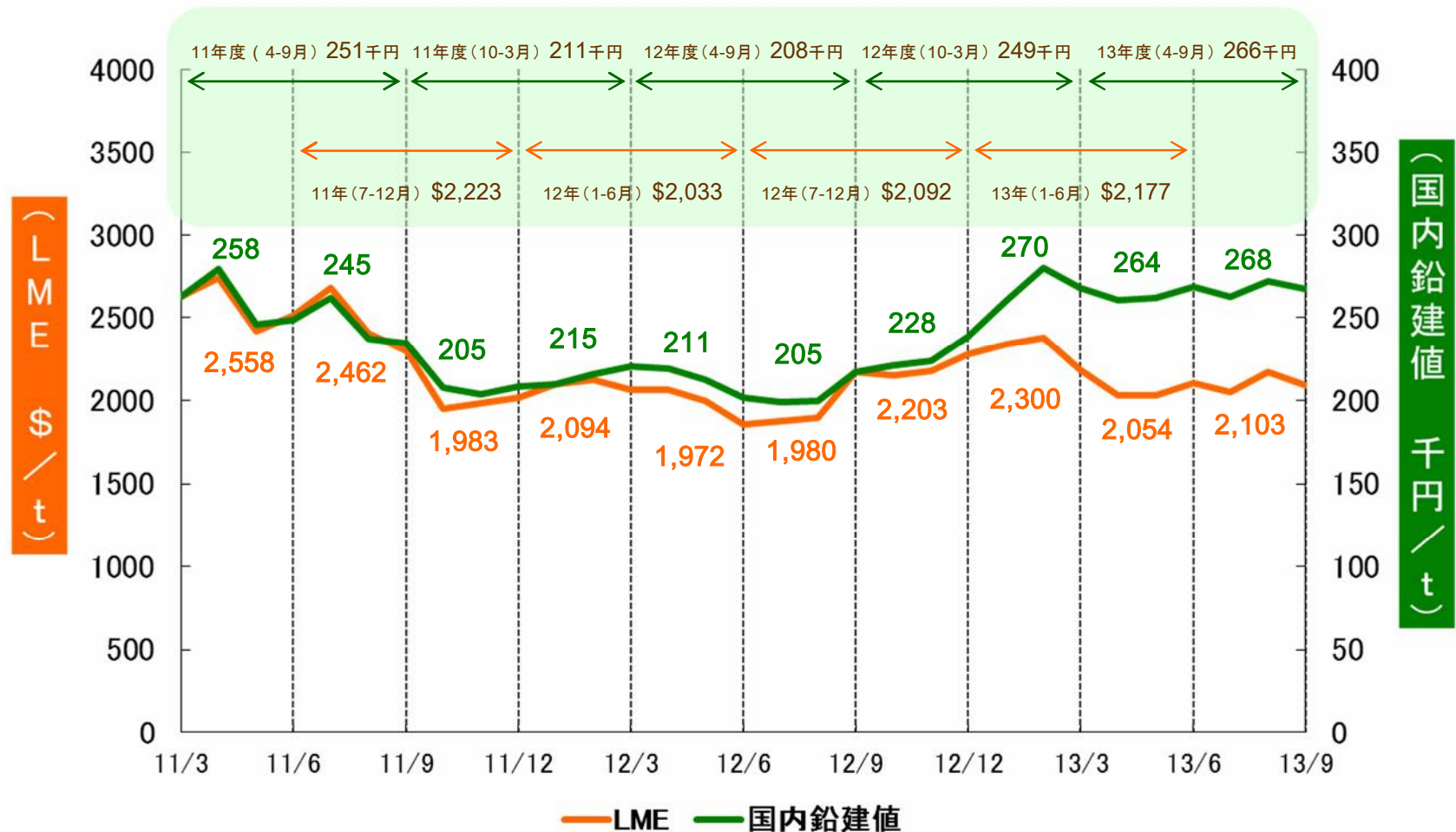


連絡先

株式会社 ジーエス・ユアサ コーポレーション  
広報室 中野 宏治 ・ 柿島 辰年  
Tel : 075-312-1214  
<http://www.gs-yuasa.com/jp>

# 参考資料

## 原材料価格の推移・前提条件



13年度前提条件  
 LME \$2,300/t  
 国内鉛建値 260千円/t

足元情報(10月30日現在)  
 LME \$2,187 国内鉛建値274千円

